



PUBLIC RELATIONS KAMIKOANI

広報 かみこめに

平成24年
9月号
No.644

歴史上初めての番楽競演

八木沢番楽は、文化十年（1813年）八木沢集落を開拓したと言われる村田徳助が、現在の北秋田市の根子から八木沢に移り住んだ時に伝えたと言われています。根子番楽をルーツを持つ八木沢番楽は、以後200年が経過する間に、八木沢流の進化を遂げ、現在の舞いとなりました。

これまで、一度も競演したことのない両番楽は、KAMIKOANIプロジェクトで歴史上初めて競演しました。互いの番楽保存会は、それぞれの演じ方の違いなど、熱心に見入っていました。



上小阿仁村八木沢番楽



主な内容

2P～5P KAMIKOANIプロジェクト秋田

6P～9P 主な出来事

10P～11P 生涯学習センターだより

13P 敬老会案内

18P 臨時職員採用情報

伝統芸能共演

秋田杉の舞台に
1000人が来場



8月18日、八木沢集落の棚田ゾーンで大地の芸術祭KAMIKOANプロジェクト「根子番楽と上小阿仁村伝統芸能競演」が行われました。緑の山々に囲まれた棚田の秋田杉ステージには、はさがけの「あも」をイメージした柱が2本設置され、特別な空間を演出しました。



次回イベント

9月15日（土）音楽イベント
9月16日（日）現代舞踏
9月17日（月）閉幕セレモニー

八木沢集落に古くからある蔵の軒下で、落ち着いた風合いの緑と、ピンクに染められた布が、風を受けて軽やかにはためく。「小さな植物たちの中に感じた世界」「出会った人々の持つそれぞれの世界」を念頭に制作された。



①森 香織（染色作家）
作品名「microcosm」

八木沢の地の力と自然の力

②長沢桂一（織物作家）
作品名「八木沢 2012」

稻を干すはさがけ6本を使い、荷造り用ポリプロピレンバンドで平織りした92枚を市松模様に配している。カラフルなフレーム織りと、山や緑の木などの自然を交互に配置することで、ゆっくり時を刻みながら変化する八木沢を表現している。



続いて小中学生も参加した「小沢駒踊り」と「大林獅子踊り」が鮮やかな衣装で披露され、2010年に復活した八木沢番楽と、本イベントのタイトルとなっている根子番楽が、歴史上初めて競演を果たしました。空の青と大自然の緑、絢爛な衣装で舞う姿に盛大な拍手が送られました。

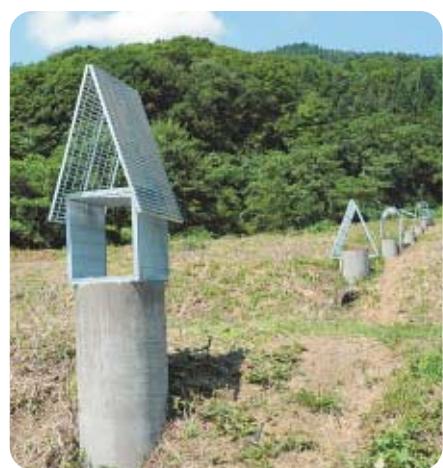
③皆川嘉左エ門(農民彫刻家)
作品名「大地の叫び」「開拓者」「平成の凶作」



④皆川嘉博(彫刻家)
作品名「源流－八木沢の風－」



⑤芝山昌也(彫刻家)
作品名「棚田－八木沢－」



⑥芝山昌也(彫刻家)
作品名「変容－はさがけ－」



日本人のルーツを探る源流の旅、源流をテーマに、巨大な野焼き作品を制作。緑に囲まれた小高い場所で、高さ205センチの男性像と175センチの女性像が神秘的にたたずんでいる。

新潟と秋田を往復する間に、必ず田んぼがあり農作業小屋が存在する。雪質によつていろんな形の小屋が存在する。農作業小屋は里山の風景には欠かすことのできないもの。農作業小屋の状態は、その地域の状態と決して無縁ではない。今、この棚田には農作業小屋が少ない。人が少なくなつても、小屋だけで独り立ちして、人の帰りを静かに待つてゐる。

苦悩する農民が、両手を天へ突き上げ叫ぶ。さまざまな困難を克服し、黙々と生き抜いてきた百姓老人の姿が、時代の重みや歴史を感じる。本の巨木から掘り出す。

実家の納屋に眠つていた馬具を装身具のようにまとう。作品が緑の中に映え、足元には大きなカボチャの葉が広がり、生命力と幻想的な雰囲気が漂う。

稻を干す「はさがけ」を題材に制作した作品。普段ここに、そびえ立つていて、朽ち果てる寸前のものに台座をしつかり付けて権威を持たせる。日常の物や色に異なる要素を持ち込み、日常的な事物を変容させる。木柱は風や雨、雪にさらされてすつかり角が取れ、過ぎ去った時間をを感じさせる。

⑦澤田弦吾(現代芸術作家)
作品名「痕跡 traces」



⑧空氣ひとし(現代美術作家)
作品名「風花々上小阿仁」



⑨山本太郎(ニッポン画家)
作品名「松樹鉄鶴図」「觀楓遊楽図」



日本画の手法で描いた絵に、3つの特徴を取り入れる。一つは日本の伝統的な絵の描き方。一つは日本のユーモア、落語の諧謔を取り入れる。イメージしたのは入学式や卒業式の晴れの瞬間と、小学校で必ず行われる秋の運動会。

立派な松の横に信号機、鶴が飛んで

いるはずのところに飛行機「鉄鶴」が飛ぶ。石の代わりゴミ箱を置き、信号機と松で「信号を松(まつ)」というダジャレをしのばせている。

作品を作るにあたって二つの制約。一つは棚田を使うこと。もう一つは、八木沢の写真を使うこと。八木沢分校舎や八木沢番楽を舞う人のシルエットを銀色のシートで型取る。痕跡を残すことで作品の中や周辺に生えている雑草の成長を見る上で、時間の流れや植物の強さを感じさせる。

八木沢に向かう道ばたに咲く風車。人は日常生活に慣れて変化に気づかなくなるもの、徐々に白い風車を増やし、日常を見直すきっかけをつくる。
道ばたに咲くかわいい花と見間違える白い風車は八木沢までの道しるべ。風花は場所を感じる一つのきっかけ。ありのままの、ここにしかない時間を感じさせる。

平成25年4月1日から、一般世帯の現行料金を世帯割、世帯員割をそれぞれ200円の値上げを予定しています。

近年人口減少により使用料が年々減少しています。また、施設の維持及び機器の更新のための管理費がかさみ、経営状況は厳しいものとなつていて、平成21年度以降は、一般会計から管理経費を特別会計に繰り入れて経営を行つていて状況が続いている。

経費の節減にも努めていますが、一般会計から特別会計に費用を繰り入れるということは、下水道に未加入の方々との不公平も否めません。更には今後使用料の增收を見込む根拠もないことから、下水道を使用している方々には負担を強いることとなります。下水道使用料を値上げして安定した経営に努めていきたいと考えています。

下水道料金の改定のお願い

| 【現行】 | | |
|------------|--|--|
| 種別 | 一般世帯 | 事業所・工場等 |
| 料金(1ヶ月当たり) | 基本料金 世帯割 1,600円 世帯員割 400円(水洗便所有) 350円(水洗便所無) | 基本料金 事業所割 1立方米 当たり 1,600円 150円 |



| 【改定案】 | | |
|------------|--|---------|
| 種別 | 一般世帯 | 事業所・工場等 |
| 料金(1ヶ月当たり) | 基本料金 世帯割 1,800円 世帯員割 600円(水洗便所有) 550円(水洗便所無) | ※変更なし |

⑩丸岡慎一（絵本作家）
作品名「ひとりぼっちの卒業式」



2月に八木沢を訪れ、雪の雰囲気、廃校の雰囲気を見学。単純に景色が良いということではなく、その裏にいろいろな問題がたくさんあるといふことを感じた。山奥の村と私の接続を求め、八木沢分校の最後の女子卒業生（1983年）に、作者が思いをはせ、いろいろなタッチで大小18点の作品を描いた。作品の背景に時空を超えた恋物語を表現する。

⑪田村一（陶芸家）
作品名「carnival portraits」



着想の原点は、八木沢公民館の廊下に飾つてある番楽の仮面を見て、作品をイメージ。作品すべてを輶轄で回し、丸い版を作り、折り畳んでお面に見立てた。もう一つは、獲物を山からの授かり物とする八木沢マタギ。作品名にあるカーニバル（謝肉祭）とマタギ文化、仮面舞踏会の白いマスクと番楽面作品、八木沢集落がどんどん連鎖していく。

⑫八木沢の皆さん
+地域おこし協力隊
作品名「Photographs」



この写真作品は、この集落にあるアルバム写真を地域おこし協力隊が集め、デジタル処理して引き延ばしたもの。分校の周辺が残っている写真など、今と比較して見ていただきたい。

放射線量定点測定結果

毎月第一月曜日、午前10時に役場駐車場で放射線量を測定しています。

結果は次のとおりです。

第4回定期測定（9月3日）

平均0.040マイクロシーベルト毎時

秋田県の通常レベル範囲は0.022～0.086マイクロシーベルト毎時です。

測定結果は5回測定の平均値です。

稻わら焼き。もみ殻の
焼却はやめましょう

稻わら焼きは秋田県公害防止条例で10月1日から11月10日までの期間、全面的に禁止されています。

稻わら焼きの煙は、視界不良による交通事故を引き起こし、目や喉を痛め、体の弱い方や病気の方に被害が及ぶことがあります。

稻わら焼きをした場合は、氏名公表も含めた厳重な措置がとられる場合もあります。生活環境保全のための禁止ですので、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

八木沢丸の乗組員を制作



8月2日、生涯学習センターで赤ちゃんとふれあい学習会が行われ、中学校3年生が、かわいい赤ちゃんとご対面しました。

この体験学習は、乳児とのふれあいを通じて父性や母性を養うことをねらいとし、同時に生命の尊さを学んでもらおうと毎年開催しています。はじめに人形を使った赤ちゃんの抱き方やオムツの当て方を練習、続いて離乳食を試食して素材の堅さや味をチェック、その後は、乳児健診にお邪魔して、赤ちゃんとふれあい体験をしました。赤ちゃんより緊張していた中学生も、かわいい笑顔に応え、未来のお父さんお母さんの優しい顔をして抱っこしていました。

8月24日、八木沢公民館前で秋田公立美術工芸短期大学の皆川嘉博准教授の指導による中国雲南式野焼きワークショップが開催されました。この日は、縄文式土器風の船「八木沢丸」に参加者が乗組員を制作し、船に乗せる計画。粘土を手でこね、土偶や土器のほかに、花瓶なども制作しました。作品は十分乾燥させた後、タイや中国雲南省にも伝わるワラと泥で覆つて火を付ける方法で野焼きされます。

皆川先生の作品「源流一八木沢の風」は、八木沢集落ゾーンに展示されています。また、県内ではJR秋田駅、秋田市立中央図書館、能代市立第五小学校に作品が設置されています。



ホールインワン目指して



8月24日、村青少年育成村民会議主催による子ども球技大会がふるさと公園で開催されました。この日行われたグラウンドゴルフは、年齢や体力に関係なく、全力を出す場面と、集中力や調整力を発揮する場面が組み合わされており、初心者でもすぐに楽しくプレーすることができます。

公園に用意された8コースは、ロングコースから、ホールインワンを狙えそうなショートコースが設置され、ナイスプレーと、入りそうでなかなか入らない様子に、笑顔と歓声が上がっていました。

結果は次のとおり

■ 小学校1～4年生の部

優勝 加藤光（小4）

■ 小学校5年生～中学生の部

優勝 石川蓮（中3）

みんなの交通安全 事故防止を呼びかけ



8月1日、夏の交通安全運動に合わせ、道の駅かみこあに前で交通安全全母の会、交通指導隊、北秋田警察署上小阿仁駐在所長による交通安全キャンペーンが行われました。

この時期は、

子どもたちの夏休みや、レジャーなどによる交通量の増加や、暑さからくる疲労で事故にながる可能性が高くなります。長時間運転する場合は、こまめに休憩をとるようにしましょう。

ボーリング道いがけた熱戦 スポーツ少年団交流大会

8月4日、健康増進トレーニングセンターと村民グラウンドで、かみこあにスポーツ少年団交流試合で爽やかな汗せを流しました。大会には、合川北スポーツ少年団が招待され、ミニバスケットと野球交流試合で爽やかな汗せを流しました。

真夏の眩しい日差しの中、両チームの接戦の試合運びに、観覧席から熱い声援が送られていました。結果は次のとおり

| | | | |
|-----|------------------------|------------------------|---------------|
| 合川北 | 6 14 2 8 4 | 9 - - - 28 | 6 10 31 |
|-----|------------------------|------------------------|---------------|



■軟式野球（5回時間切れ） かみこあに

| | | | | |
|---|----|----|---|---|
| 7 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 3 | 2 | 1 | 2 | 3 |
| 2 | 3 | 3 | 3 | × |
| 8 | 11 | 10 | | |



| | |
|-------------------------|---------------|
| 先行（かみこあに） | 北林・上平・田中大成・山田 |
| 後攻（合川北） | |
| 土佐・相馬俊輔・成田 | |
| 三塁打 相馬俊輔（合） | |
| 二塁打 田中大成・上平・田中未優菜（か） | |
| 土佐・相馬俊輔（合） | |

カリッサカツ アゲ揚げたんぽが人気



地元で受賞歴のあるB級グルメを紹介する企画で、2010年おいしい☆かみこあに創作グランプリを受賞した「アゲ揚げたんぽ」が紹介されます。

このアイデア料理は、上小阿仁若者会議が企画したイベントで、村の特産品を利用した「アゲ揚げたんぽ」「ほおづき大福」「夏の終わりの恋どろぼう／ほおづきカレー」の3品が出品され一番人気が高かつた「アゲ揚げたんぽ」が商品化されました。

8月2日、上小阿仁村観光物産センター内、れすとらん野の花が、関東・東北じゅらん10月発売号の雑誌取材を受けました。

毎年この時期から年末にかけ、高齢者の道路横断中の事故が多発しています。道路を横断するときは、左右の安全を十分確認しましょう。また、夕暮れ時や夜間の外出時には、明るい色の服装を心がけ、靴や持ち物に反射材を貼るなどして、ドライバーから早めに気づいてもらえるようにしましょう。

ドライバーの方は、ライトを早めに点灯し、歩行者や自転車を早めに発見できるようにしましょう。また、夜間は前方車や対向車がない場合にはライトを上向きにし、安全運転を心がけてください。

◆運動の重点

- ①夕暮れ時と夜間の走行中・自転車乗車中の交通事故防止
- ②すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ③飲酒運転の根絶
- ④横断歩行者の交通事故防止

9月30日は「交通死亡事故ゼロを目指す日」です。一人ひとりが交通安全意識を高め、安全運転を心がけましょう。

秋の全国交通安全運動 子どもと高齢者の交通事故防止

